

大正紡績

# 有機栽培綿を拡販 輸入倍増、契約農場10カ所

大正紡績はオーガニックコットンの拡販をめざし、今期の輸入量を倍増する。栽培契約農場は世界5大陸8カ所から10カ

所に増やした。オーガニック100%からカシミヤやシルクとのブレンドまで幅広い商品を揃え、衣料・寝装分野に幅広く

供給する。

同社は地球環境の保護を目的に、オーガニックコットンの商品開発を進めている。約10年前からオーガニックコットンの開発者サリー・フォックス農場から綿花を輸入、6年前からは栽培を依頼した提携農場からも輸入している。提携農場は米テキサス、カリフォルニア、ニューメキシコ、トルコ、エジプト、インドの8カ所に、昨年インド、トルコを加え計10カ所に拡大した。

同社の輸入量は近年2ケタ増を続け、05年度は200万円で国内最大規模。ロハス（LOHAS）や高級志向に対応し、06年度は400万を予定する。

一方、全米の栽培量は10年前のピークの2万軒

から1万2000軒に減るなど、世界的にはオーガニックの定義の厳格さや高価格帯が普及のネックとなっている。このため同社はオーガニックコットンの混率に応じてオーガニック商品を5種に分類し、需要拡大を図る。

分類は①綿100%でオーガニック混率が90%以上を「オーガニック・ピュア」②60%以上を「オーガニック・ブレンド」③90%以上だが化学染料で染めたものを「オーガニック・ダイド」④オーガニック10%と枯葉剤を使わず栽培し手摘みしたわた90%をブレンドする「オーガニック・プラザ」⑤カシミヤやアンゴラなどの他素材複合の5種。複合ではホワイトパインを原料とするセルロース繊維「レンピュール」を新素材として加える。特にオーガニック・プラザと他素材複合でオーガニックの量的普及を図りたい意向だ。